研修会:総合リハビリテーションにいかすＩＣＦ

日　　時　2013 年 10 月 12 日(土)　16:15～19:15
場　　所　公益財団法人石川県文教会館(石川県金沢市尾山町 10 番 5 号)
講　　師　上田　敏　((公財)日本障害者リハビリテーション協会　顧問、元東京大学教授)
　　大川　弥生((独)国立長寿医療研究センター　生活機能賦活研究部部長)
主　　催　(公財)日本障害者リハビリテーション協会
参 加 費　2,000 円、800 円(学生)　当日支払い可
　　総合リハビリテーション研究大会参加者は 1,000 円、600 円(学生)
　　(研究大会+ICF 研究会で(一般)4,000 円、(学生)1,600 円)

「リハビリテーション」とは「訓練」ではなく、障害のある人の「人間らしく生きる権利の回復」です。それは一部の専門家の力だけでできるものではなく、障害当事者を中心に、さまざまな専門家や行政、サービス、サポート、地域社会が力を合わせてはじめて実現できるものです。それが、私たちが新生をめざす「総合リハビリテーション」です。

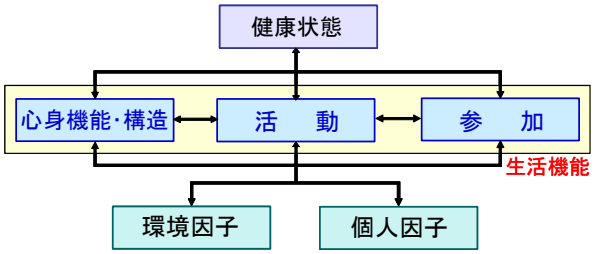
このようにさまざまな立場の人が、共通の目標に向かって力を合わせていくためには、相互理解が不可欠です。しかし現在はそこに多くの問題があり、協力を妨げています。それを解決するには「共通言語」(共通のものの考え方・捉え方)が必要です。その点、ICF(WHO　国際生活機能分類)は、人が「生きることの全体像」を偏りなく総合的に捉えることのできる「統合モデル」に立ったものとして、総合リハビリテーションに大きく役立つ「共通言語」です。

今回は、「総合リハビリテーションの新生のために、それに関わる全ての人が、いかにICFを『共通言語』として活用するか」という観点から、誰にでも役立つようにお話を進めていきます。

具体的内容

0. 本研修会の趣旨
1. ICFの特徴
　1)「生活機能」と「障害」(生活機能低下)
　2)「生活機能モデル」
2. 「相互作用・統合モデル」としてのICF
3. 災害時の生活機能低下から学ぶもの
4. 現状把握と目標設定のための活用
5. 総合リハビリテーションの新生のために

ＩＣＦの「生活機能モデル」(2001)



お申込み

1)総合リハビリテーション研究大会のお申込み用紙。
　(総合リハビリテーション研究大会参加の有無にかかわらず同じ申込用紙です。)
2)E－mailによる申し込み(seikatsu@ncgg.go.jp)

お振込み　:当日支払い可

(※総合リハビリテーション研究大会と同じ振込先です。)
1)ATMからの振込の場合
　ゆうちょ銀行　〇一九店(ゼロイチキュウ)
　当座預金　611720　口座名:総合リハビリテーション研究大会
2)郵便局・ゆうちょ銀行で払込用紙を利用する場合
　振替口座番号　00180-4-611720
　口 座 名　総合リハビリテーション研究大会